

## (7) 北 陸



北陸地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばい。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

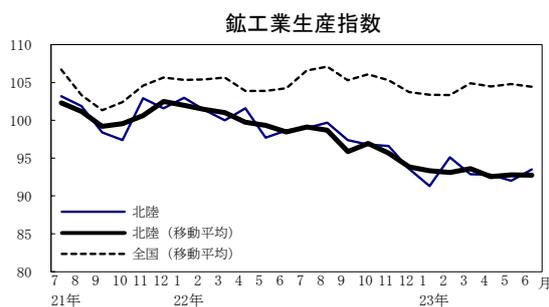
### 前回からの主要変更点

	前回 (令和5年5月)	今回 (令和5年9月)	
景況判断	持ち直しの動きに足踏みがみられる	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	↑
鉱工業生産	弱含んでいる	おおむね横ばい	↑
雇用情勢	持ち直している	改善の動きがみられる	↑

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産はおおむね横ばい。

4－6月期の鉱工業生産は、前期比0.3%減となった。月別にみると、4月は生産用機械が減少したこと等により前月比0.1%減、5月は電子部品・デバイスが減少したこと等により同0.9%減、6月は電子部品・デバイスが増加したこと等により同1.6%増となった。



### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	15.3	▲8.8	4.3	4.4	▲7.4	4.4
化学	14.0	▲2.9	10.7	17.0	▲6.7	1.5
生産用機械	11.8	▲1.5	▲16.4	▲17.5	11.5	0.3
金属製品	8.1	▲2.9	▲3.9	▲0.5	▲0.4	▲2.6
繊維	6.9	▲4.8	2.3	▲0.9	3.2	1.9
鉱工業	100.0	▲2.7	▲0.3	▲0.1	▲0.9	1.6

(備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。  
北陸の最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4－6月期、6月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

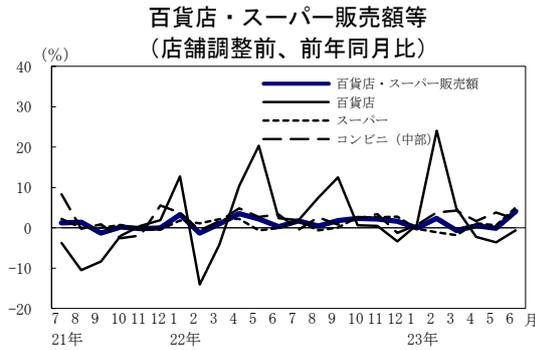
個人消費は緩やかに持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4-6月期は前期比1.5%減となった。月別にみると、4月は前月比1.6%減、5月は同0.7%増、6月は同0.1%減となった。

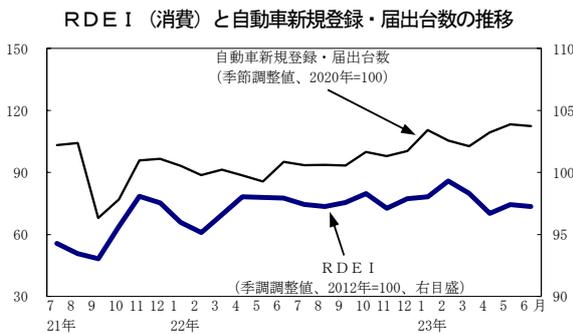
### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比1.5%増となった。月別にみると、4月は前年同月比0.5%増、5月は同0.1%減、6月は同4.1%増となった。



	2023年4-6月	2023年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	▲1.5	▲1.6	0.7	▲0.1
百貨店・スーパー(*2)	1.5	0.5	▲0.1	4.1
百貨店(*2)	▲2.2	▲2.3	▲3.6	▲0.6
スーパー(*2)	2.2	1.1	0.6	5.0
コンビニ(*2)	2.5	1.7	3.8	2.1
乗用車(*3)	23.7	23.4	31.8	17.9
(季節調整値)(*3)	5.1	6.5	3.6	▲0.7

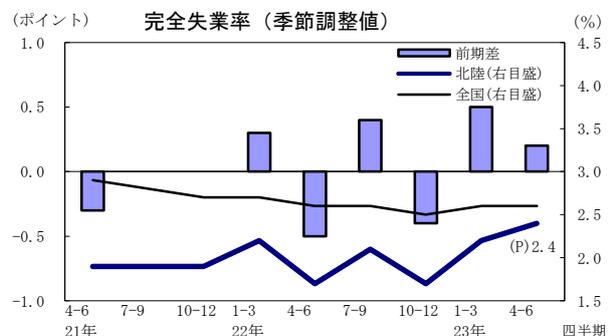
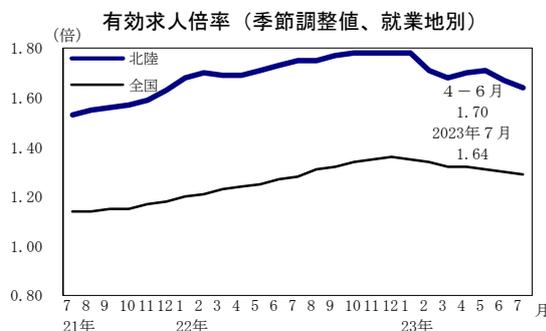
- (備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)  
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
 コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。  
 3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を上回っている。



- (備考) 1. 内閣府にて季節調整。  
 2. 4-6月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年7月調査）景気判断理由の概要

7. 北陸

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・気温上昇の影響でエアコンの販売は伸びているが、景気が回復しているとは考えられない（家電量販店）。
		▲	・各種値上げの影響で節約傾向となり、お中元ギフトの動きが良くない。個人客、法人客共に送り先の見直しや予算の削減などを行っていることが影響し、前年より10%程度のマイナスとなっている。梅雨明け以降の猛暑により、昼間の来客数が減少していることも影響している（百貨店）。
		○	・個人旅行、団体旅行共に、取扱件数が増加している（旅行代理店）。
	企業 動向 関連	○	・原材料価格やエネルギーコストは現在も高止まり状態だが、人々の動きが活発になっている影響か、外食や中食向け商品がけん引する形で全体の売上が増加しており、収益は改善傾向にある（食料品製造業）。
		□	・国内企業間の物流量は前年割れが続いている（輸送業）。
		▲	・今期に入り自動車関係、産業用関係共に想定を下回る受注状況で推移している。自動車に関してはメーカーの生産回復の遅れ、産業用関係は設備投資ペースの鈍化のためと考える（一般機械器具製造業）。
	雇用 関連	○	・新規の派遣先や、過去に取引のあった派遣先からの募集が微増している（人材派遣会社）。
		□	・物価高や光熱費高騰などの影響が大きいと考える（新聞社 [求人広告]）。
	その他の特徴 コメント		◎：7月に入り、インバウンドを含めて観光客の数が増加している。さらに、毎日暑い日が続くため、タクシー利用が多くなっている（タクシー運転手）。 □：展示場の来場者数の低迷が長期にわたっているが、今のところ改善の気配がみられない（住宅販売会社）。
	先行き	家計 動向 関連	□
▲			・各種商品や電気料金の値上げなど、家計にダメージを与えることが多く、給料が上がらない限り景気の回復は見込めない（スーパー）。
企業 動向 関連		□	・2～3か月先の受注状況から変わらないと考える（金属製品製造業）。
		○	・夏祭りや音楽、スポーツイベントが復活し、広告業やイベント関連業の需要が復活している。また、駅周辺では来春の新幹線延伸に向けた様々な事業の話が出ている（司法書士）。
雇用 関連		○	・求人数が堅調に推移している（職業安定所）。
その他の特徴 コメント			□：人流は増えているが、新車価格の高騰やガソリン価格の更なる値上げなどの影響があり、消費については慎重な状況が続く（自動車備品販売店）。 ▲：旅行業や外食産業が活発化しており、夏休みやお盆休暇などで使う金額が増え、その反動でより一層買い控えするとみている（住関連専門店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北陸）の推移（季節調整値）

